

世界に羽ばたけ！ 米山学友②①

台湾流通業の父

“台湾流通業の父”と呼ばれる徐重仁さんは、現在 63 歳。台湾に初めてセブン-イレブンを導入し、今では総店舗数 4,750 店、売上高は 1,146 億円（約 3,200 億円）。そのほか合弁会社を含む 49 社を傘下に持つ「統一超商」の社長、徐さんの原点は日本留学時代にありました。

苦学の留学生時代

幼い頃から両親の営む書店を手伝い、「経営」に興味を持ち始めた徐さん。「教授になりたいならアメリカだが、商売で身を立てたいなら日本へ留学しなさい」。大学卒業後、父はそう言って徐さんを送り出しました。

留学資金は半年で底をつき、受験勉強の時間を削っての慣れないアルバイト。受験の重圧、将来への不安が募り、「人生で最も苦しい時期」だったと徐さんは言います。帰りたくなると空港へ行き、ただ飛行機を見つめながら歯をくいしばり、涙をこらえました。

1975 年に早稲田大学大学院修士課程に合格。「流通経済学」を専攻しましたが、「流通」という言葉を知らなかった徐さんは「水の流れても研究するのか」と思っていたそうです。

生来、才能よりも努力に頼る勉強家。自他共に認める読書家で、図書館に足しげく通い、流通専門紙から政府出版物まで幅広く読んで知識を吸収しました。

2 年生の時に米山記念奨学生に合格。世話クラブの平塚ロータリークラブ（RC）との交流は楽しく、実業家を志す徐さんにとっては勉強の場でもありました。中でもカウンセラーの故・松田昇二会員は、たびたび徐さんを自宅に招き、夫人の手料理を食べさせ、生活必需品を持ち帰らせるなど親身に面倒を見ました。当時、父を亡くしたばかりの徐さんは、松田氏の心配りに、いつも帰りの電車で涙ぐむほど胸を打たれていたそうです。

コンビニ事業を台湾に！

70 年代は日本に初めてコンビニが登場、アパート裏にもオープンし、徐さんは毎日のように通いました。

「これは便利だ。台湾でも必ず普及するに違いない」

と確信した徐さんは、帰国後、大手食品メーカー・統一企業の創業者、高清愿氏に熱い思いを語りました。「ぜひうちに来てほしい」。高氏もコンビニ事業に将来性を見だしていたところでした。

78 年、統一企業は「統一超商」を設立し、コンビニ出店を開始。

80 年にはアメリカ本社との契約で「セブン-イレブン」を開店したものの赤字が続き、徐さんは別の部署に異動を命じられ、「統一超商」も親会社である統一企業の 1 事業部に吸収されてしまいました。

不遇の時期を経て、再びセブン-イレブンの経営に携わるチャンスを与えられた徐さんは、不採算店舗を大幅に閉鎖し、ターゲット顧客層や出店場所、品ぞろえの見直しを図った結果、100 店舗に達した 86 年によく黒字化。翌年、「統一超商」は再び独立を果たしました。

社会貢献を使命として

社会貢献活動を「事業経営と同様に重視すべき」と考え、コンビニ事業が赤字だった頃から実践している徐さん。99 年 9 月 21 日未明、台湾で巨大地震が発生、道路が寸断され、建物が倒壊し、停電・断水で混乱するなか、いち早く被災地に飲料水やおにぎり、テントなどの救援物資を届けたのも、彼の指揮するセブン-イレブンでした。コストを顧みず、その後も被災地の復興を支援する姿勢に、多くの国民が「たとえ政府がなくなっても、台湾にセブン-イレブンは不可欠」と賛辞を贈りました。

災害時の支援のほかにも、青少年育成、チャリティー



セブン-イレブン一号店がオープン。後方左端が徐さん



コンビニエンスストアのセブン-イレブンを台湾全土に展開し、台湾に流通革命を起こしたとされる企業「統一超商」。その社長を務めるのは米山学友、徐重仁ジョジュウニンさんです。日本をはじめ海外企業と提携し、ミスタードーナツや無印良品、スターバックスコーヒーなど数々の事業を台湾に定着させました。ロータリアンになった徐さんは、日本留学時代の感謝を胸に刻み、会社を挙げて社会貢献活動にも力を入れています。

グッズ販売、民間団体と協同の飢餓根絶運動など、さまざまな分野で手を差し伸べています。

特に、台湾の美化運動への貢献度は高く、店舗周辺の清掃のほか、日本の元企業経営者が創唱した「日本を美しくする会・掃除に学ぶ会」の考えに賛同し、「台湾美化協会きょうかい」を組織。自らもTシャツ姿でスポンジを握り、毎年7万人以上が参加する清掃事業を開催しています。

恩返しのかたち

日本で出会ったロータリーとその会員への感謝は、台湾で実を結んでいます。

95年、徐さんをはじめ日本との交流を続けたいと願う米山学友が集まり、日本語を公用語とする「台北東海RC」を創設。初代会長に選ばれた徐さんは、日本のクラブと友好提携し、その後の交流の礎を築きました。

また、80年代から台湾各地の学友が集まり、不定期ながらも活動を継続していました。97年には正式な法人組織「中華民國扶輪米山会」となり、その初代理事長も務めました。扶輪米山会はこれまでに、日本留学の良さを伝えるシンポジウムを開催したり、台湾へ留学する日本人に奨学金を支援しています（下記コラム参照）。

元カウンセラーの松田氏が病に倒れた、と聞いたのは96年のこと。台湾から駆けつけ、松田氏の手を握りしめながら、食事にも手をつけず寄り添う姿に、松田氏夫人の英子さんは涙をこぼしました。その後も「出張のつ

プロフィール

ジョジュウニン
徐重仁さん

(1976 - 77 / 平塚RC)。台湾・台南市出身。台湾最大の流通・小売企業「統一超商」社長であり、傘下のグループ企業各社で取締役会長を務める。元台湾チェーンストア協会理事長、台北東海RC初代会長、中華民國扶輪米山会（台湾米山学友会）初代理事長。2010年「国家傑出経営者賞」で最優秀賞受賞。



いで」と言いながら、たびたび病床を見舞い、2002年に亡くなった後も、「心の中で生き続ける日本のお父さん」として敬い、墓参に訪れています。

徐さんは言います。「われわれ米山学友は日本のロータリアンから受けた恩を忘れない。私自身も商業界で日台の協力関係を推進し、日本企業と共にアジアの発展を支えたい。また、ロータリアンとして社会のため、世界平和のために尽力したい」

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

台湾学友会が日本人対象奨学金の第3期生を募集

徐重仁さんが初代理事長を務めた扶輪米山会（台湾学友会、現理事長は許國文キョククワンパストガバナー）は2009年9月から、日本のロータリーへの恩返しとして、台湾の大学・大学院で学ぶ日本人への支援制度「日本人若手研究者奨学金」を開始。第1期生の山下世莉さん（台北東海ローターアクトクラブ会員）、現役の第2期生・笹川優子さんは行事に参加し交流を楽しみ、同時に「台湾の家族だと思ってください」という学友会からの手厚い支援に、心強さを感じているそうです。第3期生は年2人に増員して募集開始。身近な希望者へ、ぜひご案内ください（応募締め切りは6月30日）。詳細は米山記念奨学会ホームページまで。<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>



第1期と第2期の奨学生となった山下さん（右端）と笹川さん（左端）